

モニタリング計画に関するWG委員からのご意見

■モニタリング基本方針案について

・基本方針案については、特に意見なし。

宮本句子委員（鹿児島大）
芝正己委員（琉球大）
福田晴夫委員（元鹿児島県博）

■モニタリング計画（全体）について

・他の生物を含めた、全体のモニタリング計画（前回の話題であったが）がとても気になる。大事なのは全体の計画だと思う。

福田晴夫委員（元鹿児島県博）

・自然災害や環境に影響するような大規模な事故（タンカーからの重油流出や飛行機事故などを想定）によって、遺産地域に一定規模以上の環境攪乱の懸念がある場合に、定期的なモニタリングとは別に、緊急モニタリングができるような仕組みを検討しておく必要はないか？

米田健委員（鹿児島大）

・「2. モニタリングに係る指標の選定方針」部分について、奄美大島ではマングース防除事業でトゲネズミやケナガネズミなどの生息情報は得られていたが、2023年以降マングース防除事業終了した場合の生息情報の収集をどうするのかもご検討いただきたい。

山田文雄委員（森林総研）

■推薦書「6.モニタリング」について

表6-1 「フラッグシップ的」とは何か、わかりにくい。

表6-1 情報保管機関（実施機関）と記してあるが、具体的な（ ）内の表記がない。両者が同じであれば混乱を招かないような表現がよい。次ページも同じ。

表6-1 「指標」が「事業所」という表現は違和感がある。

6.b 1行目 主要指標等を対象 → 主要指標種の生息状況などを対象（これは指標が生物だけではないので丁寧な記述が必要）。

土屋 誠委員（琉球大学）

モニタリング計画に関するWG委員からのご意見

<p>p.2 「表6-1 推薦地の保全状況の主要指標一覧」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最下段：「脅威となる外来種が減少していること」の「マングース」の情報機関（実施機関）に鹿児島県は含まれないのか(奄美大島も対象地である)？ 	
<p>p.6 「表6-2 推薦地の保全状況の主要指標に関する過去の調査結果等」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上から2段目：編著者・発行年 環境省（2005～2018）と、論文・報告書タイトルの「奄美大島・・・（～2017）の西暦表記確認 ・下から4段目：環境省那覇自然環境事務所（2017～2018）と、回復等業務報告書（2017）の西暦表記確認 ・下から2段目：下から2段目：Fukasawa et al/(2013)の論文・報告書タイトルの末尾「20132075」の表記確認 	芝正己委員（琉球大学）
<p>推薦書改訂案では、「表6-2 推薦地の保全状況について、主要指標に加え補助的に利用可能な指標」とこの説明文章が削除され、遺産価値の指標として、希少種ではフラッグシップ3種だけとしている。他の分類群や島嶼で共通する種類も指標として加えるべきではないか？（旧表6-2を削除はなぜ</p>	山田文雄委員（森林総研）
<ul style="list-style-type: none"> ・10月に送ってきた「作業指針、抜粋」など見ているが、「昆虫」の種名が出てこないことに違和感を感じる。 	福田晴夫委員（元鹿児島県博）
<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング視点に「気候変動や災害の影響またはその予兆が早期に把握されていること」が新たに追加されたことには賛成である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・主要指標の「植生や動物相の変化」について、landscapeレベルでの資料、例えば、衛星情報などを活用したモニタリングシステムの構築も必要ではないか。（理由：頻度が高まる豪雨や大型台風等による植生攪乱を広域的に捉えて保全活動に活かすことが重要であるため） 	米田健委員（鹿児島大）